

## CEOメッセージ

# 全てのステークホルダーの皆様へ



皆様には、平素より温かいご支援、ご理解を賜り、心から御礼申しあげます。

JFEグループは発足以来、鉄鋼とエンジニアリングをコア事業とする世界有数の企業グループとして、持続的な成長が望める体制づくりに邁進し、グループ全体の収益拡大に努めています。

### ますます加速する変化の時代 (当社を取り巻く経営環境)

当社の企業経営を取り巻く環境は、近年急激な変貌を遂げつつあります。

鉄鋼業では、アルセロール・ミタルの誕生やタタによるコーラスの買収に代表されるように、世界的規模での再編の動きが活発化しています。

また、中国、インドなどのアジアを中心として鉄鋼需要が急成長を遂げつつあり、これと並行して原料価格の大額な高騰や高級品市場と汎用品市場への鉄鋼市場の二極化が進展するなど、鉄鋼業を取り巻く環境は大きな変化の時代を迎えつつあります。

鉄鋼と並ぶ当社のコア事業であるエンジニアリング事業においても、財政赤字削減のための公共事業削減が継続される一方、環境・エネルギー・リサイクルの分野で新たなビジネス機会が生まれるなど、大きな変革期を迎えております。

代表取締役社長(CEO)

數土 文夫

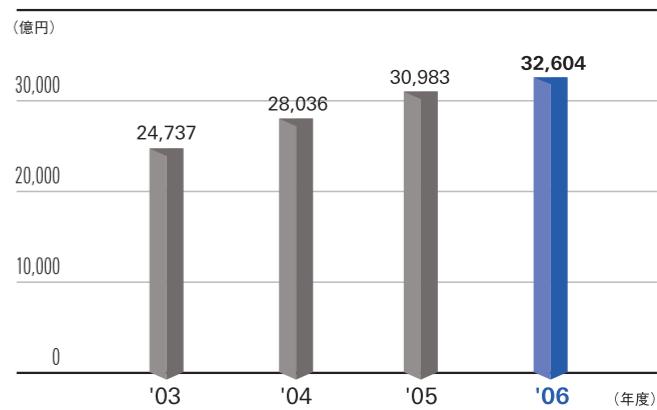
こうした中で、コーポレートガバナンスやコンプライアンスの強化、環境問題への貢献、企業内の技能伝承と人材育成など、企業としての社会的責任を果たすための課題に直面しております。

### 第2次中期計画の基本方針と進捗状況

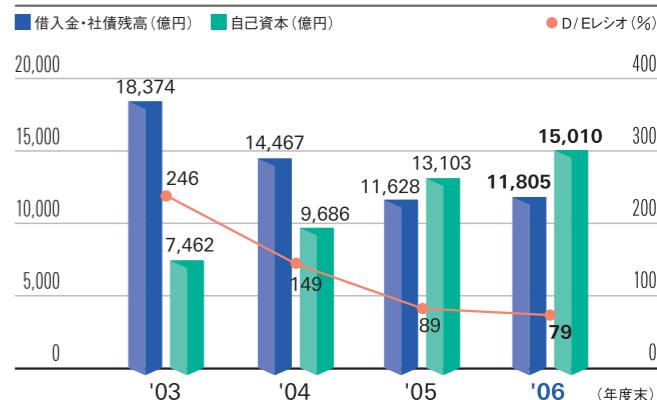
当社発足直後の第1次中期計画(2003~2005年度)では、グローバル企業としてのスタート地点に立つための基盤確立に取り組み、収益力の強化および財務体質の大幅な改善を達成することができました。これに続く第2次中期計画(2006~2008年度)では、世界的視野での飛躍に向けた地盤固めの時期と位置づけて、①安定的な高収益体質の確立、②戦略的投資への柔軟かつ果敢な対応と研究開発体制の強化、③CSRの推進とコーポレートガバナンスの確立、④財務体質の改善、⑤積極的な株主還元、を基本方針といたしました。

第2次中期計画では5,000億円規模の経常利益を安定的に獲得できる企業体質の確立を目指しておりますが、初年度である2006年度の収益は、計画を上回るペースで順調に推移し、連結経常利益は5,135億円、当期純利益は2,996億円となりました。高付加価値商品の生産・販売の拡大を通じて安定的な高収益体質の確立をめざす当社グループの戦略は着実に実を結びつつあります。

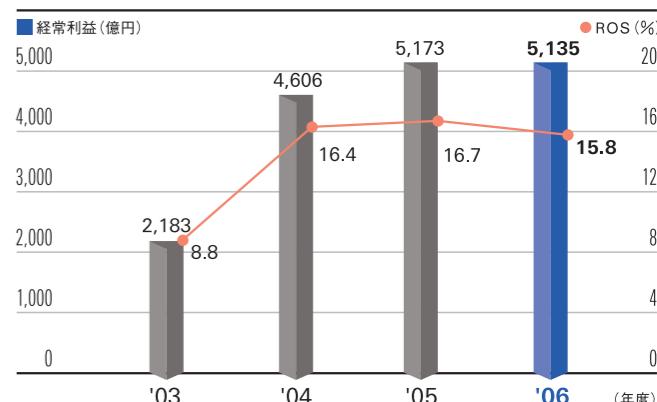
売上高の推移



借入金・社債残高／自己資本、D/Eレシオの推移



経常利益／ROS(売上高経常利益率)の推移



## CEOメッセージ

### 新たな成長戦略の推進

当社グループは第2次中期計画を着実に達成しつつあります。これに加えてグローバルプレーヤーとして世界に飛躍するための新たな成長戦略を推進してまいります。

世界の鉄鋼需要は、当社グループが強固なネットワークを持つアジアを中心に引き続き高い成長が見込まれており、当社グループが圧倒的な強みを持つ高級鋼の需要も同様に高い伸びが期待できます。当社グループは、①国内生産基盤のさらなる増強、②海外生産体制の検討、③海外アライアンスの一層の強化、などを通じて高級鋼生産販売量の増大を図り、収益のさらなる拡大と世界鉄鋼市場における当社グループのプレゼンス拡大をめざしてまいります。

エンジニアリング事業につきましては、厳しい事業環境が続く中、選択と集中および固定費の削減による競争力強化を図る一方、大きな成長が期待できる新エネルギー・省エネルギー・リサイクルなどの分野で、新技术を含めた積極的な対応を図ってまいります。

### 企業価値・株主共同の利益の維持・向上への取り組み

JFEグループは、安定的な高収益の確立と平行して、企業価値・株主共同の利益を維持・向上するための取り組みを着実に推進してまいります。

#### ① コーポレートガバナンスの強化

第2次中期計画の基本方針の一つとしてコーポレー



#### ② 買収防衛策の導入

当社は2007年3月開催の取締役会において、「当社株式の大規模な買付行為に関する対応方針」を導入することを決議しました。さらに、本年の定時株主総会において、その2年間の継続について株主の皆様のご承認をいただいております。

本方針の導入は、当社株式にかかる大規模な買付行為の提案がなされた際、その提案内容が当社の企業価値や株主共同の利益に及ぼす影響について、当社株主の皆様が慎重に判断できるよう、大規模買付者および当社取締役会の双方から必要かつ十分な情報・意見・提案などの提供がなされ、さらにそれらを検討するための必要かつ十分な時間を確保することを目的としております。(本方針についてはP-20をご参照ください。)

#### ③ 積極的な株主還元

当社は株主還元についても積極的に取り組んでおり、2006年度の配当金を120円／株に引き上げるとともに、2006年11月からは1,200億円の自己株式取得も実施し、2007年2月に完了しました。これにより、2006年度の配当性向は23.4%、総還元性向は64%となりました。

### 環境・コンプライアンス

JFEグループは、地球環境との共存や企業倫理の徹底を掲げ、社会の期待に高い水準で応えることを目標に事業活動を推進してまいります。

環境問題に関しては、「地球環境の向上を経営の重要課題と位置づけ、環境と調和した事業活動を推進する」との環境理念のもと、すべての事業活動における環境負荷の低減や省エネルギーに真摯に取り組むことはもちろん、環境調和型の商品・技術の開発・提供を進めてまいります。

また、コンプライアンスに関しましても、「グループコンプライアンス委員会」の場で基本方針や事業会社の施策を審議する他、法令の周知徹底、ホットラインの新設など、幅広い取り組みを通じて、活動の徹底を図ってまいります。

私たちJFEグループは、多くのステークホルダーの皆様とのかかわりの中で企業活動を展開してまいりました。今後も、皆様のご協力を得ながら、企業としての持続的成長を図り企業価値を高めていく所存です。

私たちの今後の取り組みについて、忌憚のないご意見、ご助言を頂戴できれば幸甚に存じます。

2007年6月

JFEホールディングス株式会社  
代表取締役社長（CEO）

丸山 三太